



## ならぬことはならぬもの

校長 山口 浩

新緑の季節が過ぎ、紫陽花の花が美しく咲く6月を迎えました。新学期が始まって2ヶ月が経ち、生徒たちは新しいクラスや部活動のペースを掴み、生き生きと活動しています。一方で、学校生活に慣れてきたこの時期は、心に「緩み」が出やすい時期でもあります。いま一度、時間の使い方や学校のきまりを見直し、充実した毎日を送れるよう、ご家庭でもお声がけをお願いいたします。

さて、江戸時代の会津藩では、同じ町に住む6歳から9歳までの藩士の子供たちが、十人前後で集まりをつくらせていました。この集まりのことを会津藩では「什(じゅう)」と呼び、そのうちの年長者が什長(座長)となりました。什長は毎日、什の仲間の家を借り、什の仲間に「什の掟(じゅうのおきて)」を言い聞かせました。この「什の掟」は会津藩士の子供たちが身につけるべき「人としての心構え」だったのでした。

### 什の掟

- 一、年長者(としうへのひと)の言うことに背(そむ)いてはなりません
  - 一、年長者にはお辞儀(おじぎ)をしなければなりません
  - 一、嘘言(うそ)を言うことはなりません
  - 一、卑怯な振舞(ひきょうなふるまい)をしてはなりません
  - 一、弱い者をいじめてはなりません
  - 一、戸外で物を食べてはなりません
- ならぬことはならぬものです

※一部、平易な言葉にしてあります。

※什により、一つ二つちがうところがあります。

私たちがよりよい社会を実現していくためには正義を愛する気持ちが大切です。しかし、正義を妨げるものに、人々の偏見や差別、不正な行為があります。今、あらためて私たちはいじめなどの不正な行為を絶対に許さないという態度が強く求められています。

最近では、インターネットを通して、情報の収集や発信を行うことが容易になっています。ネット上で軽い気持ちで書き込んだ言葉が友達の人権を侵害することもあります。また、何かと「理由」が重視される傾向がありますが、「ならぬことはならぬものです」という強い信念と毅然とした態度が、今、私たちには必要なのだと思います。

そして、生徒一人ひとりがお互いの個性を認め合い、思いやりの心を持って、中学校生活を送ってほしいと願っています。

保護者、地域の皆様には、子供たちに自分と他者を尊重し、社会のルールを守り行動する態度を、学校とともに育てていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。